

大山街道八王子道・千人同心日光往還道ウォーク

第3回 東松山駅から高坂駅

計 画 歩行距離 約8.5km

集 合 東松山駅改札口 10時15分

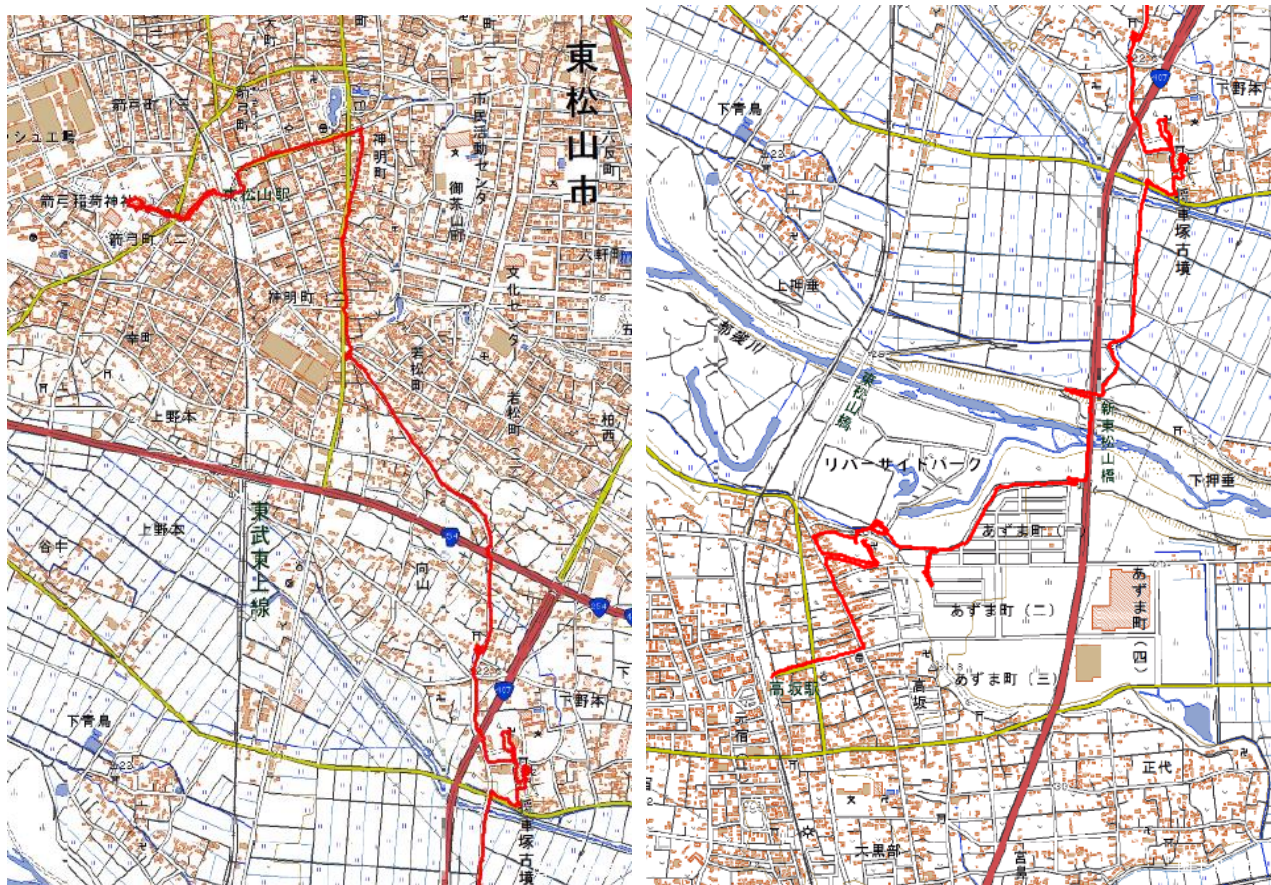
第3回 東松山駅から高坂駅

実施日 2020（R02）年6月17日（水）天候 晴 気温高いが湿気少なく風爽やか。

参加者 折本文夫、前北 勝司、宇山 治男、中田 信義、杉田 勝行、中島 征雄 計6名

コース 東松山駅西口～箭弓稲荷神社～東松山駅東口～旧街道～箭弓稲荷道石柱～七鬼神社・地藏尊～八幡神社～青面金剛庚申塔～無量寿寺・野本館跡～野本將軍塚古墳～野本村道路元標～新江川～都幾川・新東松山橋～川風公園～高坂上二丁石橋～石橋供養塔～石橋～八王子道道標～高坂館跡・高済寺～高坂駅

写真は2019（R01）年5月8日と今回2020（R02）6月17日のものを使用。



GPSデータ

歩行距離：8.9km。 累計歩行距離 28.7km。

全体所要時間：3時間20分。移動時間：2時間28分。停止時間：52分。

移動平均速度：3.6km/h。全体平均速度：2.68km/h。

街道を歩く前に「箭弓稲荷神社（やきゅういなり）」に向かう。9時58分西口を出て、ITTO個別指導学院の一方通行出口の道を進む。突き当りの右側に箭弓神社前交差点があり、道を渡ると箭弓神社の参道がある。（10：02）





箭弓稲荷神社

長元元年（1028年）下総国（千葉県）の城主、前上総介平忠常は、下総に乱をおこし安房・上総・下総を手中に収め、大軍を率いて破竹の勢いで武蔵国へ押し寄せた。

長元三年秋、忠常追討を命じられた冷泉院の判官代甲斐守源頼信（多田満仲の子、頼光の弟・・・河内源氏の祖）は、武蔵国比企郡松山野久ヶ原（やきゅうがはら）に本陣を張り、一泊した際に当社にもうで、敵退治の願書を呈し、太刀一振、馬一匹を奉納して一夜祈願した。その晩、白羽の矢のような形をした白雲が起って敵陣の方へ飛んだ（一説に白狐に乗った神が弓矢を授けた夢を見た）のを見て神様のお告げと感じ、ただちに兵を起こして敵陣に攻め込んだ。忠常の兵は不意の攻撃になすすべもなく敗れ、三日三晩の戦いで壊滅した。頼信はこれを喜び、凱旋の際、立派な社殿を再建し「箭弓稲荷大明神」と称えたと伝えられている。

現在の社殿は享保三年（1718年）領主嶋田弾正が社地四町七反余を免除し、四方の信徒と図って建造したといわれている。

明治二十九年に郷社と定められ、大正十二年には県社に昇格し、衣食住はもとより、商売繁盛、開運の神として広く知られている。

また、境内にはボタン園があり、関東随一の名園といわれている。

平成十年三月

東松山市・埼玉県



箭弓神社の本殿と絵馬

市指定文化財

箭弓神社の本殿は、正面五、四三m、奥行は五・一五mあり、屋根は切妻単層三重垂木の銅葺でできています。本殿の正面、妻梁上の西破風面は、竜・獅子・猿等の彫刻をあしらったものが多くを占めています。本殿裏には、仙人が鳥鷲（圓巻）を戦わせて遊び楽しんでいる彫刻もあり、竜・獅子・猿等力強い彫刻の多い中で興味あるものです。

本殿内部の各組組は、極彩色の花弁模様（かき）が散りばめられており、正面の扉、柱及び欄間には、極彩色の花鳥の彫刻があります。床面は朱塗りで、全体が日光廟の模様を小さくした感じです。

絵馬は、神社に馬を奉納するかわりに、板に馬を描いて奉納するのがはじまりで、近世になると馬以外の題材も扱うようになります。「目黒服店」「馬上の中国武人」「閑羽と張飛」「俵藤太秀郷」「牛若丸と弁慶」「予譲の仇討」「文人机に寄り」「武人と騎馬武者」の題名で八点の絵馬が指定されています。いずれも一〜四mの大形の絵馬で、数多くある箭弓神社の絵馬でも、作風保存状況等の優れたものです。

箭弓神社の社記によれば、祭神は宇迦御魂命（保食神）で、平安時代（長元元年―一二八八年）の草創とされています。現在の本殿等は江戸時代（天保年間―一八三六年頃）に建立され、その後数回改築されています。

昭和五十八年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしよう



御 由 緒

御祭神 宇迦之御魂神(保食神) 豊受比賣神

当社の御創建は和銅五年と伝へられ、規模の雄大さと御社殿の壮厳さと御霊験の灼たかさに於ては、関東に比なき稲荷大社と称せられ、創立の当時は野久又は矢久稲荷と称せられ里人の信仰の的となっていた。社記に依れば人皇第六十八代後一条天皇の御宇長元元年下総国(千葉)の城主前上総介平忠常謀反を企て、安房、上総、下総の三カ国を切従へ破竹の如き勢にて威を八州に震い大軍を起して武蔵国に押出せし時、冷泉院判官代甲斐守源頼信長元三年忠常追討の倫旨を賜り、当地野久ヶ原に本陣を張りて当社を尊仰し朝敵退治の願書を呈し、一終夜の御祈願ありてその曉白雲俄かに起りて白羽の箭の如く飛び行けば頼信神明の感応なりと直ちに敵陣に攻め入れば、忠常の陣中麻の如く乱れ三日三夜追討して潰滅せり、頼信御神威を感得、喜悅して直ちに見事なる御社殿を再建建立して箭弓稲荷大明神と称へ奉れりと記され亦後に御社名を箭弓稲荷と呼称す。

又宝徳三年二月初午に河肥の左金吾持資主の心願成就の法楽を捧げられ文明年中まで年毎の御祭礼は、大田道灌により執行せられ、松山城主上田氏、難波田氏も康正年中より、代々の領主達の尊信最も篤く後川越八代の城主松平大和守は、社地を免租して親筆の献額を捧げ、松平家代々の城主当社を崇敬し御分霊を城内及び邸内に奉斎された。

当社の最も隆盛を極めたのは、特に享保年間で庶民の崇敬最も厚く、四方遠近の国々貴賤当社に心願をこめて参籠し、社前市をなし人馬の往来繁く江戸より熊谷西上州、又江戸には「箭弓稲荷江戸講中」日本橋小田原町を中心に江戸市中に及び講中の参拝引きもきらず、桶川、鴻巣、吹上の宿より道中して参拝し「従是箭弓いな道」の道標五十余本ありて当時の隆盛を窺ふことが出来る。現在も大小百余講社あり。尚当社は、五穀豊穡、商売繁昌、家内安全の守護神であるとともに養蚕倍盛、交通安全、厄除、火難除、開運、学業成就、芸能精進等の神社として信仰を集めております。

○本 殿

* 指定文化財 *

当社の本殿は、間口五・四三米、奥行五・一五米で屋根は切妻、単層三重垂木の銅葺、正面妻梁上の両破風面は、竜、獅子、猿等の彫刻が多く、裏には、仙人が烏鷺(うろ)を楽んでいる彫刻がある。内部の各拵組は、極彩色の花弁模様散りばめられており、正面の扉、柱及び欄間には極彩色の花鳥の彫刻がある。床面には朱塗りて全体が日光廟を小さくした感じである。

○絵 馬

数多い絵馬のうち次の八点が指定されている。「(三)兵衛店」「馬上の中国武人」「関羽と張飛」「依藤太参郷」「牛若丸と弁慶」「子議の仇討」「文人机に寄り」「武人と騎馬武者」の題名でいづれも大型の絵馬である。

はいでんみずひきこうりょうじょうまるぼりちようこく 拝殿水引虹梁上丸彫り彫刻

Haiden mizuhiki kouryoujoumarubori choukok (mizuhiki kouryoujoumarubori carving of front shrine)

めぬきりゅう

目貫龍

"Menukiryuu(目貫龍)"



両目が、くり貫かれています龍の彫刻です。一説に、目貫は、目抜きに通じ、最も目に付く場所や中心という意味も持つとされています。その意味からすれば、拝殿における最も目立つ位置に飾られた「龍」の彫刻ともいえます。

Haiden mizuhiki kouryoujoumarubori choukok(mizuhiki kouryoujoumarubori carving of front shrine) "Menukiryuu(目貫龍)"

Ryuu(龍) means dragon. And dragon is the sacred beast of good will indeed in Japan.
Menuki(目貫) means gouging out one's eyes.
This is "the carving of Ryuu(龍)" which is gouged out both eyes of the Ryuu(龍). According to a theory, Menuki(目貫) is likened to Menuki(目貫) due to the same pronunciation of Japanese. And it is said that Menuki(目貫) has also the meanings of Menuki(目貫) like the meanings of most conspicuous and main. In that sense, this is also "the carving of Ryuu(龍)" which is placed in the most conspicuous position of front shrine.

はいでんびわいたちようこく 拝殿琵琶板彫刻

Haiden biwaite choukoku(biwaite carving of front shrine)

さんじょうこかじ 三条小鍛冶

"SANJO Kokaji(三条小鍛冶)"

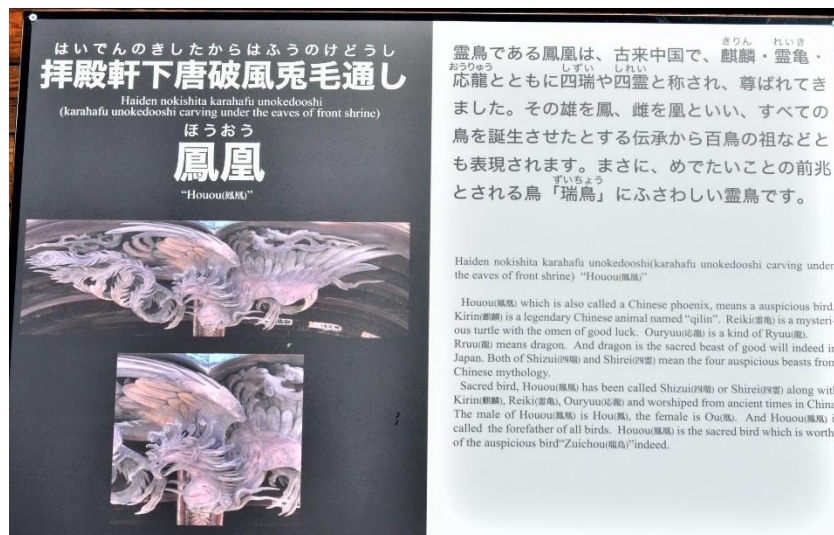


この彫刻は以下の「名刀小狐丸誕生伝承」を題材としたものです。

平安時代のこと、一条天皇より作刀を命ぜられた三条小鍛冶宗近でしたが、満足のいく刀を打てずにいました。宗近には、勅命の作刀に見合う相槌を振るうほどの高弟がいなかったのです。そんな宗近の前に、稲荷明神が童子に化身して現れ、見事に相槌を振るい、名刀小狐丸が誕生しました。

Haiden biwaite choukoku(biwaite carving of front shrine) "SANJO Kokaji(三条小鍛冶)"

SANJO Kokaji(三条小鍛冶) is regarded as a sword craftsman in the Heian period of Japan. And his first name is Munechika(宗近), he is also called SANJO Munechika(三条宗近)or SANJO Kokaji Munechika(三条小鍛冶宗近). The subject matter of this carving is the following "The birth tradition of a celebrated sword named Kogitunemaru(小狐丸)". In the Heian period of Japan, Emperor Ichijo comanded Munechika(宗近) to make a Japanese sword. However he could not make the sword which satisfied himself. Because, he did not have leading disciple to make the sword like Imperial order with him. No disciple matched the work. In fact, the method of Japanese sword making is that the master and his disciple alternately strike the body



宇迦之魂社御由緒

通称 穴宮稲荷・団十郎稲荷

御祭神 宇迦之魂神

社記に依れば「穴宮は当社眷属の穴居なるを以て俗に称す」とあります。

団十郎稲荷は、文政三年（一八二〇）の秋七代目市川團十郎が特に当社を信仰し芸道精進の大願成就の心願を御祈願し、その当時の江戸の柳盛座の新春歌舞伎興行において、「葛の葉」「狐忠信」等の段が素晴らしく演じられ毎日礼止めの大盛況で目出度く終演したことは、一重に大神様のご加護のお陰であるとして、御礼に文政四年（一八二一）仲秋に石造りの御神祠を建立されました。

それ以来、役者衆の参拝や花柳界・水商売・一般の方々の信仰厚く、芸能向上・商売繁昌の守護神として広く崇敬されています。

平成二年四月一日

箭弓稲荷神社社務所



本殿の裏奥に、当社で最も古い建築と言われ、東松山市指定有形文化財の「元宮」がある。建造時期は、江戸時代中期。木製一間社流造で屋根は柿葺。正面桁行間が48.3cm、側面梁間が42.6cm、身舎本柱と向背柱間が51.5cm、全体の奥行は940.46cm、幅は89.4cm、棟高は203.1cm。



元宮は箭弓稲荷神社境内では最も古い建物とされており、小規模ながらも、四周には精度の高い美しい彫刻（雲龍・菊・宝珠・草木・ひよどり・唐子あそび・松・鷹・獅子頭・猿頭など）が表現されていて、極彩色が施された形跡も残す。



一旦東松山駅に戻り、駅構内を通過して東口に出る。10：17東松山駅東口を出て左へ行き、右折して県道249号線を進み、東松山駅入口交差点を渡り直進し、40m先で右折。この道が旧街道。



ゆるく右カーブして、200m強進むと県道66号線に合流。県道を360m程進んだ信号交差点の右側に「左箭弓稲荷道」の石柱と道の奥に神社の鳥居が見える。（10：35）

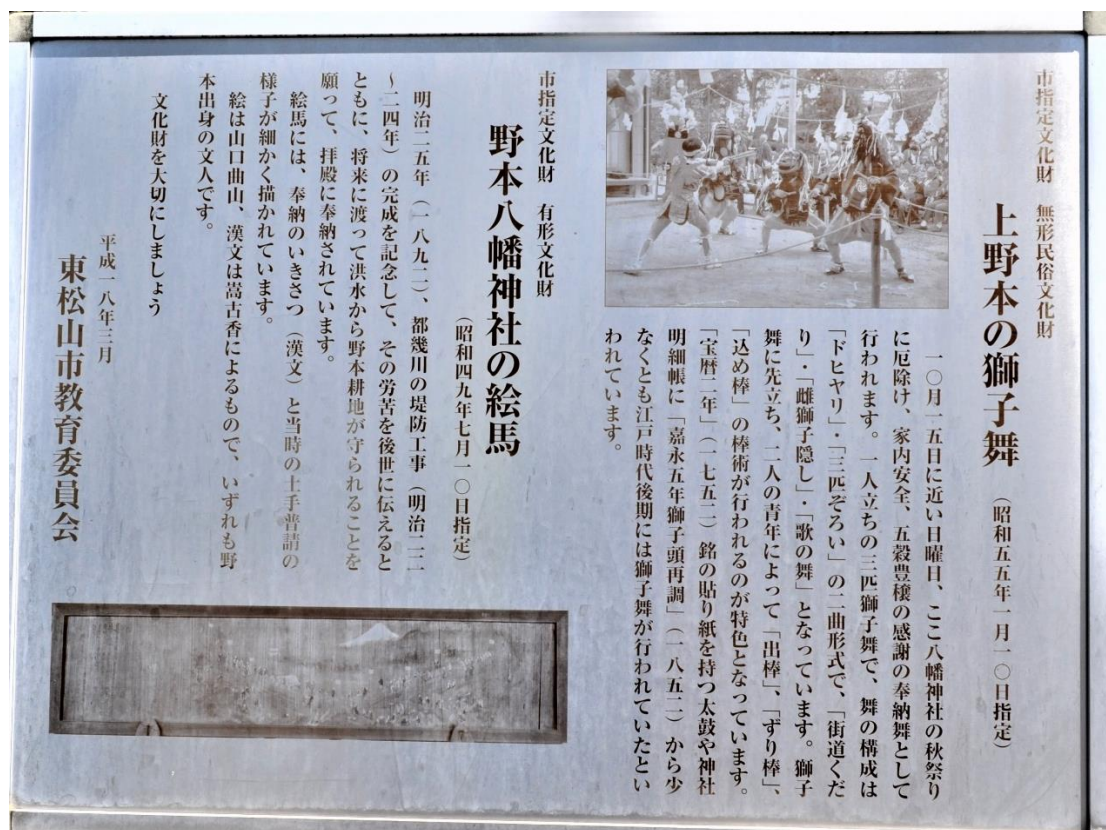


その先100mの若松町一丁目の五差路では手前から二本目の道を進む。交差点前方角に「地藏尊」と「七鬼神社」がある。（10：39）「七鬼神社」の由来は不明。



800m程で東松山バイパス（国道254号線）を横切り、400m弱の右側に「八幡神社」があり休憩。
 （10：58～11：10）
 境内には天満宮の祠、数多くの「伊勢太々御神楽」の板碑、「上野本の獅子舞、野本八幡神社の絵馬」の説明板、「青面金剛庚申塔」を祀った祠がある。





街道を進み、国道407号線を横切って80m程の左への道を入ると、左側に「野本館跡」である「無量寿寺」があり（11：17）、右側に前方後円墳の「野本将軍塚古墳」がある。



無量寿寺

野本将軍塚古墳



無量寿寺本堂

「野本館跡」東松山市指定文化財

野本基員（ののもととかず）を初代とする野本氏一族の館跡です。野本氏は系図から平安時代の公卿藤原基経（836～891・堀川大臣）の家の警護をしていた片田基親の子息基員が武蔵国野本に移り住んで野本左衛門と名のつたのが、野本氏の始まりとされています。基員は、源頼朝の信頼が厚かった武士で、鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」にも登場する人物です。

館は現在、無量寿寺の境内地となっており、本堂の北側で土塁と堀がわずかに確認できるだけとなっていますが、実際は二重の堀と土塁を廻した構造の館となっています。外側の土塁と堀は当初からのものではなく、後世の増築によるものと考えられています。江戸時代の武蔵国の様子を書いた「新編武蔵風土記稿」の無量寿寺の項には「寺領の外境内一万四千坪、境の廻り四方に堤を築き、堀の跡残れり」とあり、同書の「將軍塚の図」には土塁や堀の様子が描かれています。

館が造られた時期については、基員が貞永元年（1232）に亡くなっていること、また無量寿寺に残されている建長六年（1254）銘の銅鐘の拓本より、当時無量寿寺が野本寺といわれていたことなどから、遅くとも十三世紀の初め頃には館が造られていたと考えられています。

平成十七年三月

東松山市教育委員会



無量寿寺裏 野本館跡の土塁と濠



無量寿寺線香地藏尊



無量寿寺本堂

野本将軍塚古墳 昭和三十五年三月一日県指定史跡

将軍塚古墳は、県内有数の大きさを誇る前方後円墳です。墳丘の大きさは、全長**115m**、高さ前方部で**8m**、後円部で**15m**です。

まだ学術調査が実施されていないので、内部主体（埋葬施設）や外部施設（ハニワなど）は明らかではありません。

将軍塚古墳を中心に、東北には柏崎・古凍古墳群、南には高坂・諏訪山古墳群、西には塚原・青島古墳群、さらに吉見丘陵西斜面には吉見百穴群が分布しています。このような古墳の分布は、古墳時代すでにこの地方が、高度の社会的発展をとげていたものでしょう。

昭和五十三年三月 東松山市教育委員会

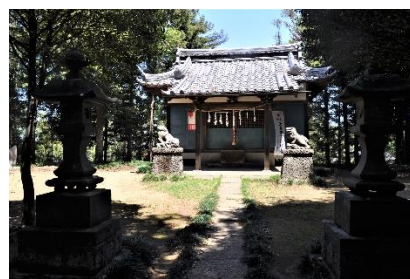


平面図



将軍塚古墳の築造年代は、平成29年の調査により古墳時代前期の4世紀後半と認められた。後円部には、現在、利仁神社が祀られている。神社の脇で昼食を取る（11：25）
将軍塚古墳の西側のくびれ部から上り、後円部から前方部と見る事ができた。





後円部頂上



前方部



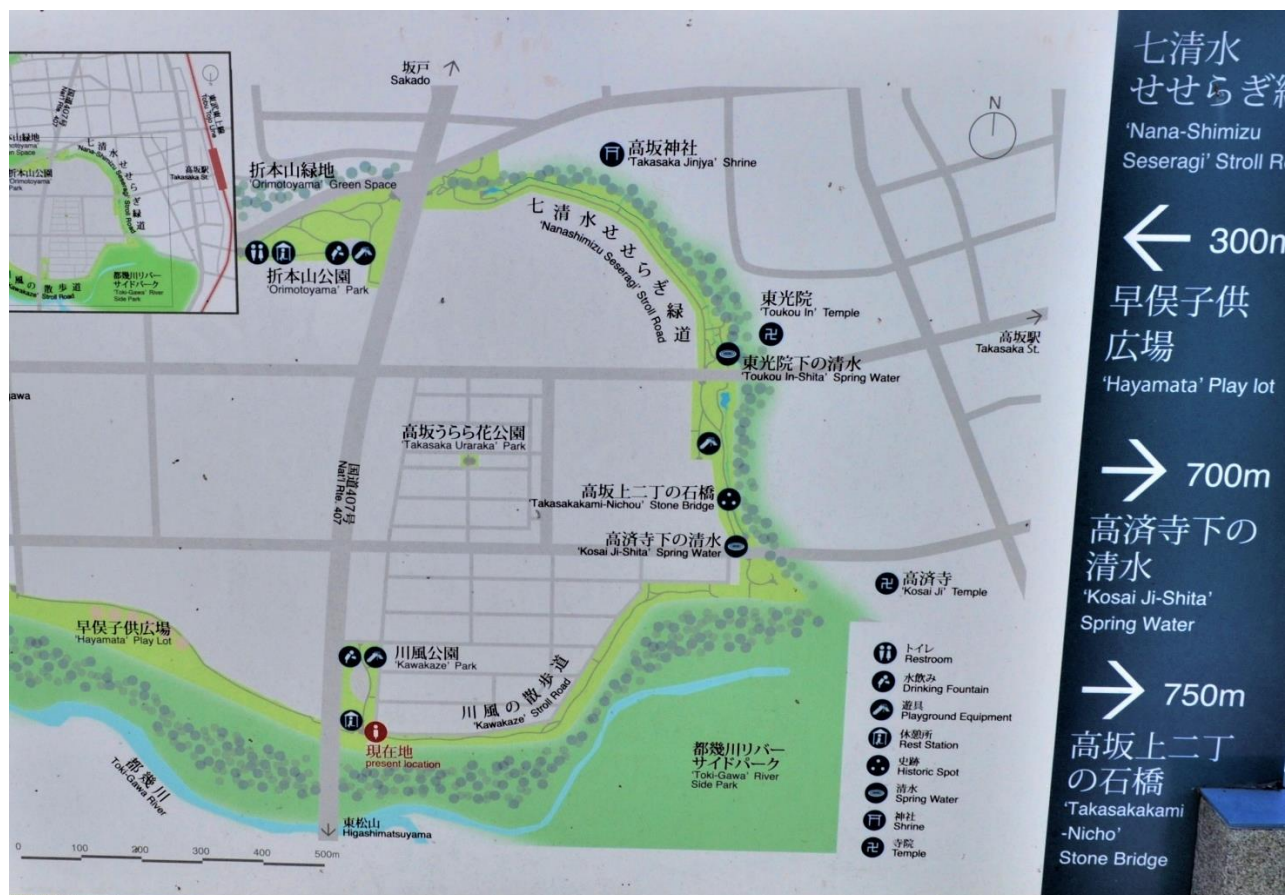
前方部から古墳を降り（11：58）、街道に出ると角に「野本村道路元標」がある。下野本橋で新江川を渡り、新東松山橋の北詰に向かう。農道を堤防近くまで行き、国道407号線の下を潜って国道に右側に出る。旧街道は、新東松山橋の北詰から都幾川を南西に渡り、高済寺の方へ向かっていたようだ。





野本将軍塚古墳遠望





橋を渡り、右手の土手の道を下りる。(12:22) 小公園(川風公園)があり、ベンチもある。土手に沿った「川風の散歩道」を進む。左手の住宅が途切れたところで左折。車道を横切ったところの「高濟寺下の清水」を見てせせらぎに沿って進むと「高坂上二丁の石橋」がある。(12:34)



高濟寺下の清水



高坂上二丁の石橋

高坂上二丁の石橋

この石橋は、旧八王子道の側溝の水を、崖下の高坂耕地に流すように設けられていた溝に架けられていたものです。

裏側に年号・地名と人名が刻まれ、この橋が江戸時代の高坂宿の上(かみ)の一・二丁目の二町に住んでいた「浅野口造」などの人たちを中心に、弘化二年(1845)に架けられたことが分ります。

人や牛馬が耕地に向うため、丈夫な橋が必要なことから、当時の沢山の人々が力を合わせて掛けたことがうかがえます。

材質は、緑泥片岩で、大きさは、長さ約210cm・幅約90cm・厚さ約15cmの一枚岩です。

石橋は、以前は現在の場所から170m程南から移設されたものです。

左折したところまで戻り上流に向かうと「石橋供養塔」とその傍らに「石橋」がある。(12:45)
右後ろから来る道があり、新東松山橋北詰から都幾川を渡った旧街道がこの辺りに出てくる。

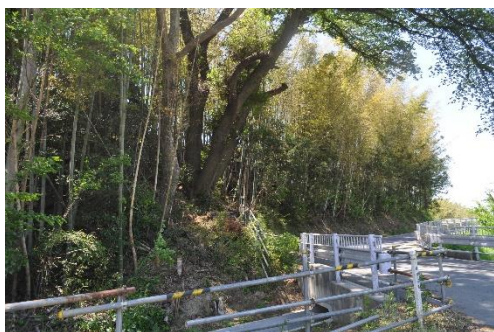
石橋及び石橋供養塔 市指定歴史資料

この石橋は、八王子・日光街道が松山方面に抜ける「高坂の渡し場」の手前の水路に架けられたもので、往時の姿のまま残されています。材質は緑泥片岩で、長さ約**370cm**・幅約**150cm**の一枚岩です。裏側には、世話人十二人の氏名が刻まれています。

石橋供養塔は橋の新設や架け替えに際し、橋がいつまでも利用できることや、通行人の安全を祈って造られたものです。現在は保存のため、原位置より北側に移されています。材質は安山岩で、高さ約**120cm**・幅約**41cm**・奥行き約**27cm**の角柱です。正面には馬頭観音坐像と「石橋供養塔」・「普門品一萬巻」・「高坂驛中」の文字が刻まれ、左側面には、松山・行田・熊谷道の道標銘と出資した村の出金額、右側面には作場・早俣道の道標銘と出資者の村名・氏名と出金額がそれぞれ刻まれています。そして、裏面は「元治元甲子歳（**1864年**）十一月吉祥日」という建造年月日と「発願主」である「連経講中世話人」十三名と石工が刻まれています。

平成十一年七月十九日指定

東松山市教育委員会



左の崖上に「高坂館」があった。その崖を斜めに上り、途中左の階段を上ると館の土塁と濠があった。



道を西に進み車道に出ると左角に「八王子道」の道標と道標を兼ねた「奉納経拝礼供養塔」がある。
(12:55)



左側の道標の正面には「八王子道」左側面に「左 ちちぶ
ひき いわどの 道」、右側面に「右 日
光 よしみ いわどの 道」と刻まれ、右側の道標「奉納
経拝礼供養塔」には「右 松山熊谷行田
左 小川八幡山 道」と刻まれている。

60m程の交差点を左折し、140m程進むと左手に土塁があり、その前に「高坂館跡」の説明板がある。





埼玉県選定重要遺跡 高坂館跡

高坂館跡は高坂氏の居館として南北朝時代に造られました。近年の発掘調査で、現在地の南にある高坂二番町遺跡（現・子育て支援センターマーレ付近）から、高坂氏が活躍した時期（十四世紀前半）のかわらけや輸入陶磁器が出土し、当時の館の中心はもっと南にあった可能性があります。

現存する土塁や堀は、『鎌倉大日記』に伊勢宗瑞（北条早雲・明応の政変に際し明応三（1495）年に在陣）が、『正法寺文書』に北条氏康（松山城攻めに際し永禄五（1562）年に在陣）がそれぞれ在陣したとの記述があることや、発掘調査で土塁や堀を改修した痕跡が見つかったことから、戦国期に整備されたものと推定されます。

館というよりも“城”のような規模になっていた「高坂館跡」は、戦国期の激しい動乱を今に伝える貴重な遺跡です。

【館の規模 南北230m・東西170m 土塁頂部と堀底の比高差 8m】

平成三十一年三月

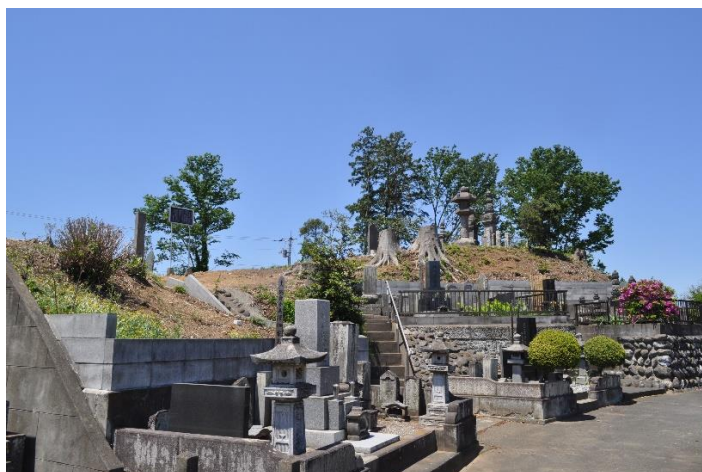
東松山市教育委員会

土塁の左奥に「堀跡」がある。

右隣に「高済寺」がある。（13：00）



高済寺の左横の土塁の上に「加賀爪氏累代の墓」の石柱と解説板があり、奥に宝篋印塔と石碑の墓が並んでいる。





加賀爪氏累代の墓

加賀爪氏は、徳川家に仕えて禄高一万石を領し、この地に陣営をおいた領主です。しかし、天和元年（1681年）に加賀爪氏は断絶されました。

加賀爪政尚は、徳川家康に仕え、長久手の戦、小田原征伐に戦功があり、比企と相模国高座（神奈川県高座郡）に三千石を領しました。加賀爪忠澄は、旗本中の乱暴者として通ったようですが、書院番隊長、寺社奉行等を勤めました。また、茶道にも通じていたらしく、鶴陽舎一明、別に、名月庵鑑とも号していたと伝えられています。

加賀爪氏は、直澄の代に成瀬氏との間で領地問題をおこし、天和元年（1681年）に領地を没収されています。（後略） 11基の戒名

昭和五十二年三月 東松山市教育委員会

街道に戻り、330m程進んだ右角に高坂郵便局がある交差点を右へ行くと高坂駅がある。



駅に13時19分に到着。13時30分発池袋行急行に乗る。

今日はここまで。

暑い日差しの中、全員無事に歩き切りました。

以上